

田中允編

朱刊謡曲集

一

古典文庫

田中允編

未刊謡曲集

古典文庫

古典文庫 第一九四冊

昭和三十八年九月二十日 印刷発行

非売品

編者 田 中 允

集曲謡刊未

一

編集兼
発行者 吉 田 幸 一

東京都北区西ヶ原三ノ三四

東京都文京区春日町二ノ五〇

印刷者 英和印刷株式会社

発行所

東京都（王子局区内）
北区西ヶ原三ノ三四

古 典 文 庫

振替口座東京一四五九七番

未刊謡曲集

第一冊

凡 例

一、樋口本未刊曲一一〇番を発音別五十音順にし、四七番目の「撰集」までを収めた。

一、翻刻はすべて原本通りにし、私意を加えたところは、皆（ ）でくくった。

一、原本には段落はないが、序破急五段を標準にして編者の見識で適宜改行した。

一、異本との校合は特に注意すべき問題の所だけに絞った。

一、節付は印刷の都合上省略した。

一、次第・クセなどの重要補助記号は出来るだけ残したが、打切を意味する「ウ」間拍子を意味する「ヤ」「ヤヲハ」地拍子を意味する「トル」「片地」「ヨクリ」吟を意味する「ツヨ」「ヨハ」「和」拍子法を意味する「ノル」「拍子不合」などの特殊記号は省略した。

一、傍訓や清音を意味する「ス」などは必要と思われるもののみを残した。

二、「印は必ずしも原本通りにせず、詞の所（節付のない所）は「、節の所（節付のある所）はへを付けて区別した。（原本は「のみでへはない。また原本に「のない所にも編者の見識で「またはへを附した）

一、句読点は原則として原本通りにしたが、八拍子一節の中間にある句読は節付の記号に過ぎないので省略した。また拍子に合う所では八拍子一節の句切の所、拍子に合わない韻文の所（節のある所）では七五調を基調とする句切の所（以上は前後の節の関係上謡本に句読点を付けないのである）は、それぞれ一字分空白にした。

一、濁点は原本にはない場合が多く、これはすべて補ったが、原本にある場合もあり、異本を参考にして補った場合もある。また清濁いずれか不明の場合はそのままにした所が稀にある。

一、曲名の下に数字は樋口本の巻序を示した。（三15は三百番目の第十五冊の意）

樋口本解題

未刊番外謡曲のすべてを上梓する手始めに、数多い写本群の中でも最もよく整備された善本と認められる編者蔵の樋口本を宛てることにした。樋口本については、国語と国文学昭和十六年二月号に紹介したので、詳しくはそれに譲り、ここではその後加筆すべきことを交え、その要点を述べるに止める。

樋口本番外謡曲五番綴八十冊四百番（一冊重複あり正確には三百九十五番）は昭和十四年十二月伊賀上野の沖森書店から購入したのであるが、旧蔵者は京都の某謡曲師範で、その先代がその師匠より譲り受けた由で、本箱の裏側に本箱よりは新しい張紙があり、そこに「観世流大鼓家元樋口半四郎所伝 樋口本番外四百番」と書かれ、本箱の表左下には「南樋口」と墨書されているから、四座役者目録に近代素人芸者として「樋口久左衛門 後石州ト云……」として見え、武鑑

や江戸惣鹿子名所大全などの江戸時代の役者名簿類に観世座付の大鼓方として記録されている樋口家に伝わった写本と推定される。

樋口本は、文化文政頃の筆写で朱の書入れが豊富にあり、観世流節付で、三百番目・四百番目・五百番目・六百番目の四グループからなるが、この全貌を知るとよい資料に、京観世五軒家蘭家の伝統を引く井上家(当主嘉久氏)蔵の井上本(国語国文昭和十八年三月号に紹介)第一種と、姫路在住福王流脇方江崎家蔵「謠名寄国附」及びその異本である鴻山文庫(江島伊兵衛氏文庫)蔵「謳番組」がある。井上本第一種は、樋口本と同系統の写本で、重複曲の本文は殆ど同文であり、五番組百三十六冊六百七十九番(一冊だけ四番を収む)であるが、百番目から六百番目までの百二十冊と、七百番目に当るかと思われる十六冊とから成って居る。このうち二百番目までの四十冊は、元禄三年山本長兵衛版内外二百番に全く同じ組合せであり、内容も同じである。三百番目から五百番目までの六十冊は、三百番目の一部巻次に小異がある外は樋口本と同じ組合せであって、三百番

目の第六冊までは元禄三年山本長兵衛版外別組三十番の中から、水無月祓と枕蓆童とを除き、代りに寶曆十三年版外題揃（天明四年版新十番に同じ）に見える外三十番外の十番から、恋重荷と烏帽子折とを入れてあり、樋口本はこの部分は全部整版本をそのまま用いている。また樋口本が四百番目の第十一冊を欠いて代りに五百番目の第十六冊を重複させて埋めてある欠本（小尉・太刀堀・鴛鴦・河水・佐保川の巻）を井上本で埋め得る。ところが井上本の六百番目二十冊と七百番目に当る所の五冊、計二十五冊は他に見られない組合せであり、七百番目に当る残りの十一冊は元禄十一年田方屋伊右衛門版（正徳六年林和泉椽版も同じ）四百番外百番の組合に非常に似通っている。

江崎本謠目録国附（九百番目まで百番目毎に何百番目との朱書がある）と鴻山文庫本謳番組とは殆ど同内容の福王流の謠名寄（江崎家は福王流の名家で、江崎本の末尾に福王盛親〔服部宗巴〕や福王盛有の作乃至編纂の由を記し、鴻山文庫本は福王流の秘伝書と共に購入の由）であって、九百二十番の曲名を記し、そのう

ち二百番目全部、三百番目の前半、六百番目以下は井上本に一致しないが、そのほかは小異はあるが井上本の組合せにはほぼ一致する。また六百番目は小異はあるが樋口本の六百番目にはほぼ一致するから、結局、この名寄の三百番目の後半から六百番目までは樋口本にはほぼ一致することになる。したがって樋口本は、九百余番あった福王流のレパートリーの中から、最も頻繁に謡われた内外二百番（能としては現行曲）と最も遠い七百番目以下とを除いた本ということになる。

福王流の祖福王盛親（服部宗巴）は今日の素謡（舞も囃子もない謡だけの略式演奏）の創始者であり（野々村戒三「能楽古今記」二四八頁）、樋口本には今日そのまま謡える詳細な謡い方に関する註記（ツヨ・ヨハ・ノル・シヅメル・モ「モチの意」その他多数）があるから、樋口本は福王流の素謡用の正本であつたと考えられる。家蔵に樋口本と全く同体裁の番外曲零本五番綴十二冊六十番（樋口別本）が存在することも、この推定を裏付けると考える。なお紙数の関係で四百番の曲名は割愛の止むなきに至つたが、国語と国文学昭和十六年二月号を見

て頂きたい。

伝 本 解 題 (五十音順)

浅—浅葱表紙本 家藏浅葱表紙江戸中期上懸写本。五番綴三十九冊、二番綴一冊。本文は貞享三年・元禄二年の番外版本に近い。東心坊の奥に元禄十年正月十七日付の朱の書入がある。

井—井上本 京観世井上家藏、福王系統、江戸後期写。樋口本と殆ど同文。四種あり、それぞれ1234の符号を附す。国語国文昭和十八年三月号に紹介。

石—石田本 石田元季先生旧藏、天理図書館現藏？江戸中期上懸写本。十番綴十五冊。謡曲界昭和二年十一月号に紹介。

上—上杉本 法政大学能楽研究所藏、上杉家旧藏延宝以後の江戸中期下懸写本。五番綴一〇四冊。能楽研究所藏書目録解題に解説。

江―江崎本 姫路の福王流脇方江崎家蔵本。零本群であるが、江戸中期のものが大部分で、いずれも福王流。

樺―樺表紙本 家蔵樺色表紙江戸後期上懸写本。草稿本風で校合の朱書もあり、二十番綴三冊（内一冊には二番追加）。

吉―吉川本 吉川家旧蔵江戸中期下懸写本。新謡曲百番と同系同書体。五番綴四十五冊。

京―京大本 京都大学文学科閲覧室蔵本。三種ありそれぞれ123の符号を附す。第一種、無節付、江戸初期写し、十番綴二十三冊、九番綴一冊。七番綴一冊。第二種、上懸節付（稀に下懸節付交る）、江戸後期写し、五番綴二十冊（内一冊は六番綴）。第三種、下懸節付、江戸中期写、十三冊、三〇一番、内一冊は四十四番綴で曲舞のみの曲が三十四番ある。

車―車屋吉川小本 吉川家旧蔵、鴻山文庫蔵慶長初年頃車屋道晰筆写の小型草稿本。五番綴二十一冊（内四冊は六番綴、一冊は八番綴）。江島伊兵衛著「車屋本

の研究」四七頁以下に解説。

元—元文写本 丸岡桂氏旧蔵元文二年松岡友素筆写本。二十三冊。関東大震災で焼失。丸岡氏の「古今謡曲解題」によりその梗概を知り得るのみ。

五—五百番本 法政大学能楽研究所蔵、観世流五百番本。江戸中期写。五番綴一〇〇冊（内五冊欠本）。蔵書目録一三頁に解説。

鴻—鴻山文庫本 鴻山文庫（江島伊兵衛氏文庫）蔵江戸中期写上懸節付、能勢本と同系統。五番綴二十六冊。五百番目までの符号あり、零本らしい。

鴻雜—鴻山文庫雜本 鴻山文庫蔵の二番綴・三番綴などの零本群。主として上懸節付・江戸中期から後期にかけての写本。

国—国学院本 国学院大学図書館蔵本。七種あり、それぞれ1234567の符号を附す。江戸中期乃至後期の写しで、上懸節付。福王系の本文が多い。第一種五番綴十五冊。第二種五番綴十九冊。第三種三番綴二十八冊。第四種五番綴五八冊（内三番綴十四冊）。第五種十番綴十一冊（内十一番綴一冊、五番綴二冊）。第

六種五番綴三冊。第七種二番綴一冊。

紺―紺表紙本 家藏。紺表紙、上懸節付、江戸後期写。五番綴二十冊。

佐―佐野本 金沢在住宝生流佐野家藏本。下懸節付、江戸前期写。新謡曲百番と同系同体裁の姉妹本。五番綴二十冊。宝生昭和十四年三月号に紹介。

斎―斎藤本 故斎藤香村氏藏本（未見）。謡曲講座第二期第十輯に斎藤氏が「新発見の番外謡」と題して四百余番の新発見曲を報告して居られるが、その中には存在の疑わしいもの、既発見曲の未知別名を新発見曲の如く仮託されたいものなどあり、全面的には信じ難いので、続いて発表された「番外稀曲解題」で解説されたもののみを取り上げた。

柴―柴田本 家藏。岐阜柴田熊之助旧藏。寛政頃写、上懸節付、福王系。一番綴五十二冊仮綴本（内久世舞十四冊）。

下―下村本 天理図書館藏。京都下村家旧藏本。上懸・下懸両節付交り、系統も種々のようで、変った本文を持つ曲もあるが、節付註記は粗雑。万印五番綴二十

冊。ト印五番綴十九冊。一印五番綴十八冊。竹印五番綴二十冊。梅印十番綴九冊。松印十番綴二十冊（内一番本文のみ欠）。「ト」が「十」の意とすれば、「百」「千」の部が欠であり、また二十冊が揃いらしいから、若干の欠本があると思われる。

仙—仙台本 宮城県立図書館蔵、仙台伊達家旧蔵伊達文庫本（曲名のみにて本文未見）。番外曲写本に六種あり、それぞれ 1 2 3 4 5 6 の符号を附す。第一種、六百四十三番本、下懸節付、珍曲多数。第二種、百番本、殆ど版本所収曲。第三種、五十番本、五番綴十冊、版本所収曲が多い。第四種、六番本、曲舞集らしい。第五種、十七番本、同上。第六種、二番本、「松島」「小菰」（第一種所収同名曲の加筆本）外に一番綴の謡本四冊、間狂言本三冊あり、「仙雜」と仮称す。

田—田安本 鴻山文庫蔵。田安家旧蔵。下懸節付、近世中期写。五番綴七十冊。

大—大聖寺本 大聖寺前田家蔵、下懸節付、江戸前期写。五番綴二十冊。佐野本を外組とすればその内組に当るかとも思われ、重複は一曲もなく、この方が版本

所収曲が多く、珍曲は殆どない。本文新謡曲百番系統。体裁佐野本に類似。

田下―田中下懸本 家蔵。下懸節付、江戸中期写、五番綴十二冊零本。佐野本・吉川本・大聖寺本・新謡曲百番などと同系同体裁の本。

茶―茶枕本 家蔵。上懸節付、江戸末期写、茶表紙枕本。十番綴九冊。近い曲が多い。

能―能勢本 故能勢朝次氏蔵。野宮旧子爵家旧蔵、上懸節付、江戸後期写。五番綴四十冊。「盛親章句」と註した曲が相当にあり、樋口本に殆ど一致するから、福王系と思われる。戦災で焼失したらしいが、その透写本家蔵。

樋別―樋口別本 家蔵。樋口本と同内容同体裁、曲の組合せも全く同じの五番綴十二冊の零本。

松―松平本 故松平頼寿氏蔵。下懸節付、江戸末期か明治初期頃写、十番綴五冊。

毛―毛利本 毛利旧公爵家蔵。無節付、江戸前期写枕本。二十番綴八冊（内一冊